

シーン - 10 自然の家 人と自然の交流事業

事業目的

県立3自然の家が実施する自然体験プログラムによる学習体験を通じ、日常生活や家庭における生活習慣等を改善する「具体的な行動」につなげるとともに、自らの意識を改革し、人間が環境へと調和していくことの大切さを実感できる人材育成を図ります。

事業効果

二酸化炭素の削減効果	- t-co2
その他(参加者)	400人

事業内容

平成25年度事業費 2,237千円

事業量 自然の家人材養成回数10回 総人数 400人

実施主体 宮城県(蔵王, 松島, 志津川自然の家)

蔵王自然の家: 蔵王里山トレッキング事業, 蔵王四季の登山事業

松島自然の家: 被災地の自然環境保全へ向けての体験活動指導者養成事業

志津川自然の家: 野鳥の森体験事業, 総合的な環境学習の実施



現状

学校における環境学習は教科として位置づけがされていないため、教科書もなく実践は教師と児童生徒に任されている。

登山者の集中, 踏み荒らしによる植生の悪化
ブラックバスなどの特定外来生物による生態系の危機
人間活動により損なわれた自然環境の増加

税導入後のイメージ

社会教育施設である自然体験プログラムの学習体験が家庭の生活習慣や生活様式改善への行動につながり、多様化する環境問題に対する理解や意識の向上が図れる。

また、観察・実験や調査等のプログラムを通して自然環境や生活環境を大切にしていこうとする意識や態度を醸成させるとともに、人間と環境のかかわりについて理解し、環境への関心を高め環境と調和できる人材育成が図られる。